

川崎港長期構想検討委員会（第4回）でのご意見について

川崎港長期構想策定後の取組みの方向性などにつきまして以下の御意見をいただきました。本構想に基づいて推進する取組について今後検討を深める上で、参考にさせていただきます。

意見
これまでに十分に検討されているため、かなり分かりやすく充実した内容となっております。監視カメラについては不法投棄対策としてだけでなく、防犯対策としての活用も検討してもらいたい。
お送りいただきました「川崎港長期構想（案）」に異存ありません。カーボンニュートラル社会への移行など大きな環境変化の中でも川崎港が競争力を維持し、社会に大きな寄与をされることを望んでいます。
これまでの検討課題について、具体的に反映された非常によく練れた内容となったと思います。技術の進展にアンテナを高く保ちつつ、川崎港の将来の役割と展開に生かされることを願います。
市民の理解を更に得られる様進めていくべき。計画的に見える化しながら実施し川崎市の本気度を皆さんへ伝える事が川崎港の将来像実現への近道である。
新構想なのでとこかくの新しいことに目が行きがちであるが、これまでの延長線上の課題進捗がしつかりとなされることで新しいことへの発展へつながるので、将来に向けてはどちらかに偏ることなくバランスよく進めていただければと思います。
幅広くニーズを網羅した形でまとめるのに大変ご苦労あったかと存じますが、皆様の御努力に心より敬意を表したいと思います。
国内で有数の冷凍・冷蔵庫群が存在する川崎港臨海部の優位性を生かした、コンテナ船航路（特にリーファー）誘致のための施策（インセンティブ、電源設備拡充等）を行うべき。
長期構想の実現には、行政・企業・大学・市民それぞれが主体的に関わるということが重要であると考えます。それには、先ず、新たに策定する本構想が、広く周知されるよう取り組んでいただきたい。それぞれの主体の理解を得ることができれば、今後の事業展開を円滑に進められるのではないのでしょうか。
扇島南地区西側の将来のゾーニングは、交流関連ゾーンとして示されており、当該箇所は商業・文化・生活等の機能を想定していることから、近隣のゾーニング（生産・エネルギーゾーン）及び隣接する横浜港の土地利用との調和や調整が必要であると考えます。また、当該箇所は川崎港の将来像の1つである「誰もが働きたい・訪れたい港」を実現させるゾーンとして設定していることから、川崎市中心部との交通アクセス機能（鉄道やバス等）の確保も必要であると考えます。長期構想策定後、港湾計画の改訂を行う際には、以上の点について十分検討いただくようお願いしたい。